

# 葛南教育事務所だより

千葉県教育庁葛南教育事務所  
〒273-0012 船橋市浜町2 -5 -1  
Tel 047-433-6017 Fax 047-433-3169



## 令和3年度 所長学校訪問・校長室訪問を終えて

### 【管理課】

12月2日(木)の校長室訪問をもって、今年度110校(55校の所長学校訪問と55校の校長室訪問)の訪問が全て無事に終了しました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防を考慮しながら、特に夏の第5波の影響から8月以降は内容・時間ともにさらに縮小しての訪問となりました。訪問校の皆様には、事前の準備から当日の対応までご配慮をいただき、充実した訪問を実施することができました。「信頼される学校づくり」の実現のため、事前に提出していただいた「所長学校訪問資料」、「学校運営自己診断票」、「事前アンケート」をもとに学校の現状を把握し、校長先生方と実りある意見交換をさせていただきました。今年度のまとめとして、よりよい取組を実践している具体例(○)と事務所からのお願い(※)について以下のとおりまとめました。

### (1) 働き方改革の推進について

- 「時短アイデア」を募集・紹介し、「ちょこっと研修」と称した短時間研修も行き、時間短縮の意識を高めている。
- 小学校において、総合・道徳の評価と所見を年度末のみとし、前期は面談により保護者へ児童の様子を伝えている。
- 小学校において、教科担任制を取り入れ、前期と後期でも担当教科を交換し、教材研究に費やす時間を短縮している。
- 中学校において、清掃時間を日課の中で繰り上げるにより、通年で午後5時までの中で部活動を実施かつ朝練習をなくし、ノー残業デーをほぼ100%達成している。
- 提案資料の中に、「昨年度から～を省略・昨年度の～を兼ねる」などの働き方改革の項目を盛り込んでいる。
- 欠席連絡はメール。簡易な便りはメールとHP。アンケートはGoogleフォーム等を活用している。
- 清掃活動を週2日カットし、朝学習を昼学習に切り替え、下校時間を早めている。
- 簡易的な連絡時間を設けて、学年会議や全体打合せの回数を減らし、Teamsも活用している。
- 職員室内の作業スペースを広く確保し、雑談(簡易連絡)スペースも設けている。
- 行事の反省などの職員の意見は直接データに各自が書き込んでいる。
- PC内の共有フォルダーを整理し、保存のルールを決めている。
- 全職員午後5時退勤の共通ノー残業デーを月に2回実施し、自分の都合で設定するMyノー残業デーも月に2回実施している。
- 職員打合せを週2回から週1回に減らし、発言の必要のない案件は「連絡シート」に各自書き込むようにしている。
- 会議時間を最大1時間までと徹底し、前月までに予定に組み込んだ会議のみを実施し、臨時会議を設けない。

※ポイントの一つとして、いかに「放課後の時間を確保できるか」という点があげられます。また、働き方改革に向けての呼びかけを管理職はもちろん学年主任が中心となって行うことによって、学年単位から全校へと効果が波及する傾向があります。学校における業務改善は「教育の質を落とさずに働き方を工夫していくこと」が大切です。お互いアイデアを出し合って、これまでの業務を当たり前とせず、よりよい働き方への意識を高めていきましょう。

## (2) 教職員が育ち、活気ある不祥事ゼロの学校づくり推進について

- 生活や学習における学校のきまりを1枚の紙にわかりやすくまとめて家庭に配付するとともに職員の指導の方向性もまとめている。
  - 学校のマスコットキャラクターを児童生徒に公募し、決定したデザインをプロのイラストレーターに整えてもらい、学校のオリジナルグッズ(トートバック)を作成した。
  - 児童生徒の日常の学習ノートを紹介し合う「全校ノート選手権」を行い、校長が表彰した。
  - 校長が初若年層とともに各教室の授業見学を行い解説していく「校長とめぐる授業改善ツアー」を実施した。
  - 「学校カフェ」と称した会議とは別の短時間で気軽に集まって情報交換する場と時間を設けている。
  - モラルアップ委員会をフル活用し、初若年層職員が中心となって教職員としての心構えや考え方、社会的マナーや保護者対応についての留意点をまとめた冊子を作成した。また、似顔絵や誕生日紹介など職員間のコミュニケーションを図る取組を気軽かつ継続的に行っている。
  - 近隣校の中堅層から若年層が集まり、「水彩画の指導法」「所見の書き方」「跳び箱指導法」などの短時間研修を気軽に行っている。
- ※研究授業の他にも、日頃から気軽に「授業を見合う」ということが刺激となっているようです。アイデアも浮かび、モチベーションを高めることにつながるのでしょうか。また、保護者との電話の仕方やテストの丸付けの仕方など、日頃からのちょっとした悩みや指導法、仕事のテクニックについて気軽に情報交換できる環境も大切です。よい組織とは、よい人間関係であり、前向きに物事に取り組める条件は「体調がよいこと」「見通しがもてること」「雰囲気が良いこと」であるとも言われます。今後もよりよい職場環境を職員みんなで構築していきましょう。



訪問を通じて、各校から貴重なご意見をうかがうとともに、各校で実態に応じた工夫された取組をされていることを実感することができました。来年度も学校・教職員が元気になれる訪問となるよう実施してまいります。

# 管内永年勤続者表彰

令和3年11月から葛南教育事務所管内各市で、永年勤続者感謝状の贈呈を行いました。この感謝状の贈呈は、モラルアッププロジェクト委員会答申(平成16年12月14日)を受け、管内の学校教育進展のために尽力された方々に対し、敬意を表するとともに、今後のさらなる活躍に向け、職員の士気の向上を図ることを目的に管内独自で実施しています。今年度も、葛南教育事務所と葛南地区教育委員会連絡協議会から、管内で勤続30年を迎えられた教職員の皆様128名に感謝状を贈呈しました。

贈呈の方法につきましては、新型コロナウイルス感染防止の観点から管内各市での対応となりましたが、永年勤続者の皆様におかれましては、各々にこれまでの思いや経験を改めて胸に抱かれたことでしょうか。神子所長から感謝状を直接お渡しすることは叶いませんでしたが、「あふれる愛情と確かな実践をもって、管内のみならず千葉県の教育の進展に大きく貢献されたことに、敬意と感謝の意を表します。今後も『チーム葛南・UNIFY(ユニファイ)』を合言葉に、教職員が一つになり築き上げてきた葛南教育の伝統と実践を繋いでいくために、後輩たちの人材育成については是非ともお力をお貸しいただきたい。』という思いを込めて感謝状を作成しましたことを申し添えます。



## 令和3年度葛南教育事務所管内「学力向上交流会」を開催しました！

### 【指導室】

令和3年度葛南教育事務所管内「学力向上交流会」を、令和3年11月10日（木）に開催しました。今年度の「学力向上交流会」は、オンライン会議システムを用いた初の試みでの開催となりました。

「学力向上交流会」は、毎年11月の「学力向上月間」に、県の学力向上施策の各学校への浸透とともに、授業改善好事例を共有することで教員の授業力の向上を図ることを目的とし、例年、葛南管内の小中学校で授業参観の後、分科会で協議するという流れで行って来ました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、参集による開催が難しくなったことから、令和2年度は動画配信による開催、今年度は、オンライン会議システム（Zoom ミーティング）を用いた双方向型による開催としました。

### オンラインシステムを活用して分科会を行いました

当日は、8つの分科会に分かれて提案・協議を行いました。八千代市の4校をホスト校とし、8名の提案者の方々から、優れた実践のご紹介や提案等をしていただきました。



第2分科会「ICTの活用について」提案の様子

### 分科会の様子

各分科会とも、約40分間の提案時間を設けました。画面に向かっての提案は、普段と異なる部分もあったかと思いますが、パスワード付きの資料で当日の提案に変化を付けたり、絵文字を使って参加者の反応を確認したりするなど、オンラインの特徴を存分に生かした工夫が見られました。参加者の方々からも、「資料が見やすい」「互いの反応がわかりやすい」などの感想をいただきました。

また、協議ではZoom ミーティングのブレイクアウト機能を活用して小グループ討議で活発に議論した分科会や、チャット機能を使って多くのご意見・ご質問を取り上げながら進行した分科会もありました。

現在の情勢の中で、行動の制限のかかる場面も多くありますが、「すべては子供たちのために」を合言葉に、チーム葛南で学びを止めない工夫を続けていきたいと思えます。

※ 「学力向上交流会」全体会の動画は、以下のQRコードから視聴することができます。是非、ご覧ください。



- ① 全体会  
（千葉県の教育施策について）  
[https://youtu.be/ok3Ds\\_G1vJk](https://youtu.be/ok3Ds_G1vJk)



- ② 全国学力・学習状況調査  
について  
<https://youtu.be/tuMJNSGf9VE>



- ③ ちばっ子の学び  
変革推進事業の紹介  
[https://youtu.be/GrvpDsO\\_QMY](https://youtu.be/GrvpDsO_QMY)

—ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかりやすい授業づくり」—

## 「動」と「静」を組み合わせよう！



【指導室 特別支援教育班】

葛南教育事務所では、令和3年度葛南教育事務所重点目標の一つとして、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた『わかりやすい授業づくり』」を掲げています。今回は、授業づくりのポイントとして、「動」と「静」を組み合わせることについて考えてみましょう。教室の中に、じっと座っていることが苦手な児童生徒や、集中が持続しにくい児童生徒はいないでしょうか。そのような児童生徒が落ち着き、集中して授業に取り組みやすくなるためには、動的な活動と静的な活動を適度に組み合わせることや、行動を切り替えやすくする仕掛けがポイントとなります。落ち着き、集中していることが、「授業がわかる」ことの前提となります。

児童生徒の立場になって、授業づくりや教師の行動について考えてみましょう。



Aさん

体を動かしていることが多い。じっとするのは苦手。(多動性)



Bさん

授業中、静かに過ごしている。注意が逸れやすく、空想していることが多い。(不注意)



Cさん

色々なことによく気が付く。気付いたことがあると、すぐに動いたり話したりしたくなる。(衝動性)



Dさん

一つのことによく集中し、没頭する。活動を切り替えることが苦手で、時間を要する。(感情や行動の調整の苦手さ)

### Point 1 動く場面を設定しよう！

★座ったまま上半身を動かさず動作や、立って移動しながら動く動作などを、学習に効果的に取り入れましょう。

- ・ 挙手やジェスチャーで応答する場面をつくる。
- ・ 活動の合間に手指や顔を使う体操をする。
- ・ 移動して友達同士の意見交換をする場面をつくる。

★じっとしていることが得意でない児童生徒に、個別に動ける場面を設定しましょう。

- ・ プリントや教材を配るようにする。
- ・ 道具を取りに行ったり届けに行ったりするようにする。
- ・ 前へ出て発表する機会をつくる。

★思いきり体を動かせる時間を確保しましょう。

- ・ 休み時間には外でたくさん遊ぶようにする。
- ・ 授業の始めに、体操やダンスを取り入れる。



動きがあると、活動に集中しやすいな。逸れた注意がもどるきっかけにもなるな。

体を動かすと、気分転換になって、体がむずむずとしなくなるな。



### Point 2 教師の伝え方にも「動」と「静」を！

★聞き手が退屈してしまったり、注意を向け続けることが難しくなってしまうような状況にならないように、メリハリのある話し方をしましょう。



- ・ 動作をつけたり、あえて動きを止めたりする。
- ・ 声の調子(大きさ・高さ・速さ・声色)に変化をつける。
- ・ 立て続けに話さず細かく区切って話し、必要に応じて間をつくることで、児童生徒が思考する時間を確保する。
- ・ 大切な話の前には、あえて動きを静止し、集中を促す。大きすぎない声でゆっくりと話す。

### Point 3 「静」を大切にしよう！

★静かにしてから、活動を始める習慣をつけましょう。  
数秒間でも静寂をしっかりと味わい、「静」を意識化していくことが大切です。

- ・教師は、その場が静かになってから話し始める。
- ・話や音楽を「聴く」前に、静寂の時間を設ける。



静かだと気持ちが落ち着いて、切り替えやすくなるな。  
耳を澄ませる感覚がわかるな。

★静かにしやすい状況づくりを工夫しましょう。

児童生徒によっては、突然静かにすることや、ずっと静かにすることは難しい場合があります。

- ・動いた後に止まる／思いきり声を出した後に黙るようにする。
- ・小さな声や音を、消え入るまでしっかりと鑑賞する活動をする。
- ・短い時間でも静かにできたことを褒め、再度動いたり声を出したりしてよい状況をつくる。

★動きや音の「ON」と「OFF」を明確に示し、メリハリのあつ状況をつくりましょう。

- ・音楽の再生と停止に合わせて、動きや声を「ON」「OFF」する活動をする。
- ・静かにする合図を決め、習慣化を図る。

動いた後の方が、止まりやすいよ。  
音や動きで極端に示されると、自分の動きを調整する感覚がつかみやすいな。



### Point 4 活動の見通しをもたせよう！

★授業の流れを視覚的に示し、「静かにする時」「動く時」等が一目で分かるようにしましょう。  
「後で動く活動がある」「後で発言する機会がある」等ということが分かることで、安心して落ち着いて過ごしやすくなる場合があります。

- ・授業の流れをホワイトボード等に示し、確認する。
- ・「今、何の場面か」が分かるように、授業の展開に合わせて印を付け、確認する。
- ・一つ一つの活動の始まりと終わりを明確に伝える。



おもしろいことに気が付いたぞ。この後の発表タイムで、みんなに伝えようっと。今は少しがまんだな。

★行動を切り替える場面では、少し前に確認し、心構えができるようにしましょう。

場面が替わる時には、体や心の準備ができていないか確かめましょう。

- ・「〇〇タイムはあと3分です。」「次は〇〇をします。」等と事前に端的に伝える。
- ・「聞く準備はできたかな？」等と確認してから活動を始める。

事前に気付けると、心の準備がしやすいよ。



★行動を切り替えやすくなるような工夫をしましょう。

- ・タイマーの音や音楽を用いて合図を出したり、気分を変えやすくしたりする。
- ・児童生徒が行動を切り替えようとしている時には、必要な時間待つ。



きっかけがあると、切り替えやすくなるよ。



児童生徒の体や視線の動きをよく観察し、「どのような状況の時にどのような反応をするのか」「集中している時はどのような様子か」等を把握していきましょう。そして、児童生徒の様子に応じて授業構成や教師の振る舞いを工夫し、障害の有無にかかわらず、「誰もが過ごしやすい教室」「誰もが参加しやすい授業」を目指していきましょう。